

# フォーラム

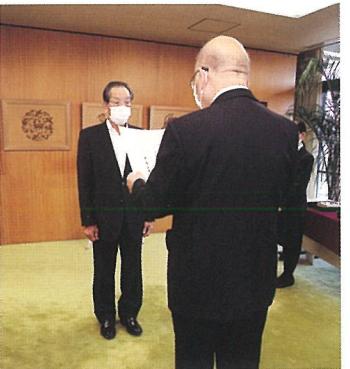
特定非営利活動法人 奈良 21世紀フォーラム会報

2021年  
新春号  
No.37

## ニュース

### ◇ 2020 年実施の主な事業

- 2月 5日 岡本(株)会社見学会を開催
- 6月 20日 令和2年度 理事会・通常総会開催
- 11月 14日～15日 第11回大仏書道大会の開催
- 11月 25日 春日大社奉納蹴鞠の実施
- 12月 18日 「第11回あしたのなら表彰」受賞



# 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。  
本年が会員皆様にとりまして輝かしい年になります  
よう、心からお祈り申し上げます。  
昨年は新型コロナウィルス感染症の世界的拡大に伴  
い、価値観や行動が大きく変容しました。

また、アメリカ大統領の交代や米中摩擦の行方など、  
世界情勢は引き続き不透明な状況下にあります。一方  
で、ワクチンの開発が進むなど、わずかながら明るい  
兆しも見えてまいりました。

さて、当フォーラムは、2000年（平成12年）  
に奈良の文化資源を活かし地域文化の振興と活性化に寄与することを目的に設立され、  
昨年4月に設立20周年を迎えました。この記念すべき節目の年に、奈良県より  
榮えある第11回「あしたのなら表彰」を受賞いたしました。

この度の受賞は「万葉蹴鞠の復元」「書の文化の伝承」「県内の歴史文化の探訪」「県内企業の企业文化・企業風土の調査と紹介」「吉野川源流の水源地の森を守る活動支援」など当フォーラム設立以来取り組んできた活動が奈良のPRや魅力向上に繋がったとして高く評価いただいたものです。

これもひとえに会員ならびにこれら活動にご協力くださった皆様方のご支援の賜物と深く感謝申しあげます。

事業活動につきましては、各関係先のご理解とご協力のもと、感染症防止策を講じることで2月に岡本(株)会社見学会、11月に「大仏書道大会」、「春日大社奉納蹴鞠」を無事完遂することができました。

今後も日本の歴史・文化の発祥の地「奈良」において意義ある事業を展開、推進してまいります。

会員皆様の変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

（2021年1月吉日）



理事長 植野康夫

# 令和2年度理事会・通常総会開催

## —活動実施の方針・事業計画を決定—

令和2年度理事会・通常総会の開催については、新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う政府の緊急事態宣言等を踏まえ、感染症拡大防止の観点から書面議決や委任での参加をお願いし、少人数での開催とさせていただきました。

### ○令和2年度理事会・通常総会の開催

令和2年度の理事会ならびに通常総会は6月20日(土)、奈良市三条町の奈良21世紀フォーラム事務所において開催いたしました。理事会は午前10時から開催し、総会での付議事項を決定しました。

引き続き10時20分から開催された総会では、令和元年度の事業報告と決算の承認、令和2年度の活動実施の方針、事業計画及び予算を決定しました。

### ◇活動実施の方針

- ・奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。
- ・奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。
- ・奈良県内に根を下ろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と奈良の風土とのかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。



奈良 21世紀フォーラム事務所  
奈良交通第2ビル 5F (JR 奈良駅前)

### ◇令和2年度の事業計画

- ①「万葉蹴鞠」の復元
- ②「書の文化」の伝承
- ③「奈良県内の歴史文化資源」の探訪
- ④「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介
- ⑤「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

事業計画は、フォーラム発足時からの事業である「万葉けまり」の復元、「書の文化」の伝承、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援の3事業を継続するほか、「奈良県内の歴史文化資源」の探訪については、日本人の心の原点を探る活動として奈良県内の神社、仏閣を始めとする文化資源を顕彰し、新たな視点で紹介するとともに、食文化を発掘し、観光資源として地域活性化に結びつける提案活動を行ってまいります。

また、「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介については、奈良の風土に育まれ成長するユニークな企業を対象に製造・製作・展示等の現場や様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として企業見学会を実施する。

これら2事業と合せて5事業を行うことを決定しました。

## 2020年1月から12月に実施した事業

### 1. 「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介

#### ◎岡本(株)会社見学会を開催

実施日 令和2年2月5日（水）

参加者 18名

令和2年2月5日、奈良県広陵町にある岡本株式会社奈良工場の見学会を開催しました。同社は1934年に創業、戦後株式会社に組織変更し主力の靴下生産を家内工業から工場生産方式に切り替えやがてコンピュータ制御の編機を開発するなど積極的に近代化に取り組み、製造・卸売業界トップの地位を築いてこられました。



現在同社は大阪市西区に本社を構えますが、この日訪問した創業の地奈良工場は移転する10年前までは本社があった場所です。はじめに工場責任者の越田部長から会社概要について、沿革や立地する広陵町の歴史的背景（大和木綿の産地）、靴下の製造工程など詳しい説明がありました。とくに強調されたのは業界で唯一設置されているR&D部門です。靴下を“レッグウェア”として捉え、靴下の科学を通して健康と美を追究するため脚足の研究、素材である糸の開発そして編機などのメカトロニクスの開発に取り組んでいるとのことでした。

概要をお聞きしてから2班にわかれて現場見学に向かいました。大量の糸が保管されている原料倉庫を見ていよいよ製造現場です。最新の編機（122台）が整然と並び、上部にセットされた複数の糸が、デザイン・柄・肉厚・パイル・リブなどの情報がコンピュータ制御によ



って見ていている間に1本の靴下になりエアシューターで次工程に送られていきます。これだけ自動化が進んでいてもつま先の部分を熟練の作業員がミシンでつなぎ合わせるセクションもあり機械ではできない優れた人間の能力を知らされる思いもしました。その後靴下は熱でプレスされ目視や検針器などのチェックを経

て製品としてパッケージされていきます。アシックスなどの有名メーカーブランドの靴下が大半でした。この工場で製造される靴下は年間約480万足（1日約2万足）で主に国内量販店やスポーツ用品会社に供給されているとのことでした。

製造工程から今度はR&D部門と靴下工房の見学に移ります。各種の計測器や試験試料がありまた人間の脚足の

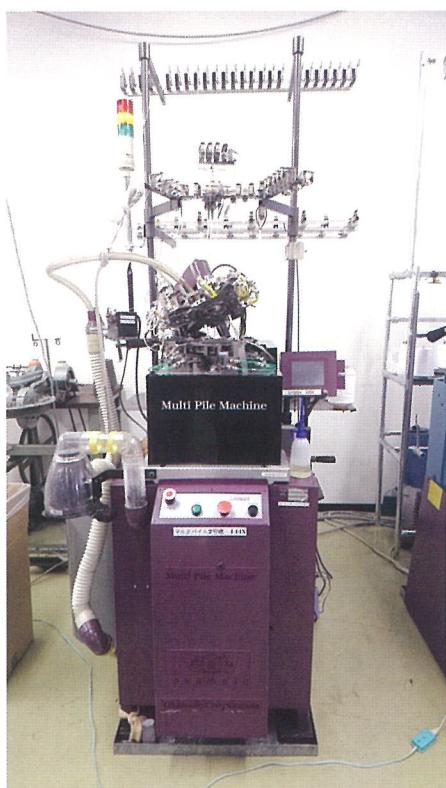


成長の過程を研究するために年代ごとの石膏模型が並んでいました。靴下を科学するという当社の姿勢がよくわかります。

靴下工房は、靴下のミュージアムといった感じでした。靴下の歴史が写真パネルで紹介され、また同社で過去使用した編機が今でもすぐ稼働可能な状態で保存されており、その中に自社開発した編機も堂々と並んでいました。

研修室に戻って質疑応答がありました。越田部長から、昨秋日本中を感動させたラグビーワールドカップ、出場した強豪国オーストラリアチームの正式ソックスは当社製であったとの話が披露され、今後オリンピックや有名スポーツ選手への特注品を供給することで企業価値向上につなげたいとの思いを感じることができました。

日常身近な衣類である靴下の製造現場を体感しものづくりの理念を再認識して岡本株式会社奈良工場をあとにしました。引き続き、大和高田市文化財ボランティアの方々にご案内いただき近鉄築山駅東側に展開する築山古墳群を見学しました。最大の築山古墳は4世紀後半の築造とされ、墳丘の長さが



210mの前方後円墳で外周は壕で囲まれています。さらに周辺には5つの古墳と多数の倍塚があり一つずつ説明を受けながら1時間余りかけて散策、同市に残る古代史の一端に触れることができました。

充実した見学会は築山駅で15時30分に解散、無事終了しました。（T. H記）



## 2. 書の文化の伝承

### ◎第11回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 令和2年11月14日（土）～15日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

11月14日（土）から15日（日）の2日間、東大寺大仏殿西回廊に於いて、「第11回大仏書道大会」の書道展を開催しました。本年は、コロナ禍での開催につき、三密を避けるなど感染拡大防止策を講じての開催となりました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まり、以降毎年開催し今年で第11回目を迎えました。書の可能性を感じさせるような作品、単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいている。今回はコロナ禍で学校の行事日程の変更や部活動が制限されるなど、作品の募集に大きな影響が出るものと案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり、全国72の高校・大学から1492点の応募を頂くことができました。

同書道展にさきがけ10月27日には、朝日新聞社奈良総局において森本公誠・東大寺長老（当フォーラム理事・特別顧問）を審査委員長に迎え、奈良県教育委員会の書道担当職員、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入選作品を選定しました。

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で力強い作品など個性を發揮した作品が数多く見られました。

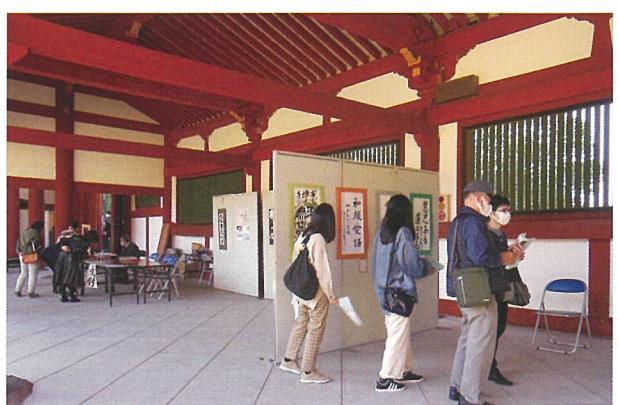
また、優れた作品を多数応募された団体に贈られる奨励賞には、滋賀県立甲西高等学校、兵庫県立伊川谷北高等学校、京都府立洛西高等学校の3校が選ばれました。

今年も受賞作品100点を大仏殿西回廊に展示し、入選者や学校関係者をはじめ参拝客や観光客の方にも観覧していただき、700名余りの来場を得ました。

なお、15日に開催予定の席書会は新型コロナウイルス感染拡大防止策として三密を避けるため、関係者と協議し中止いたしました。



審査会の様子（朝日新聞社奈良総局）



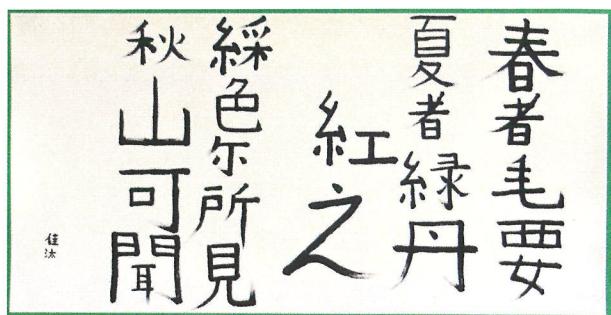
展覧会の様子

## 奈良県知事賞「紅葉」

齋藤佳汰さん（東京都・共栄学園高校）

この季節にふさわしい万葉集を当時の表記である万葉仮名で書いたものです。「春者毛要夏者綠丹紅之秋山可聞」淡々とした筆運びは一貫しており、

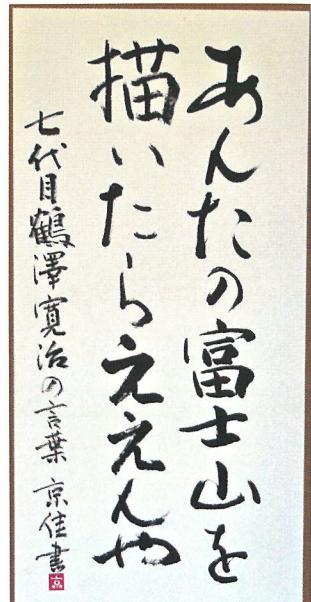
文字の大小の変化は自然で作意がありません。うまく余白ができ、この作はこれ一枚しか書けないかもしれません。天平の秋を思わせる素朴で好感の持てる作品です。



## 奈良県教育長賞「75億個の富士山」

山本京佳さん（京都府立北嵯峨高校）

「いい言葉ですね！」と審査員一同が見入った作品です。（鶴澤寛治は文楽義太夫節三味線型の名跡）この方の言葉を作者はしっかりと受け止め、「75億個（世界人口）の富士山」と題して皆が自信を持つようにと願い、堂々とした筆使いで書き上げました。筆墨によるこの二行の書は、活字で読むより見る人の心に届きます。



## 奈良市長賞「麗」

熊倉楓太さん（新潟県立新津南高校）

独特の線質は孔雀の羽の筆ですね。動きのある行書体の筆を止めず、左に空間を生みながら紙面いっぱいに展開しました。「麗」の一文字が絵画のようです。大きく腕を回して書く様子が目に浮かびます。作者の高校生活は学業と書に研鑽し、何より筆墨を愛し書を楽しんだことが生きいきと伝わってきます。



## 奈良市教育長賞「星」

樋口真奈佳さん（福岡県立糸島高校）

墨の青いじみが効果的です。渴（かす）れのまま一気に筆を運び最後は宇宙に続くイメージでしょうか。星の古い字形は、上部が日（太陽）ではなく晶（多くの星が光り輝く形）に作ります。左のメッセージの…輝く…と、この篆書体の星の造形が重なり、作者の思いが存分に感じられる作品となりました。



## 東大寺賞 「密」

中村千尋さん（大阪府立金岡高校）

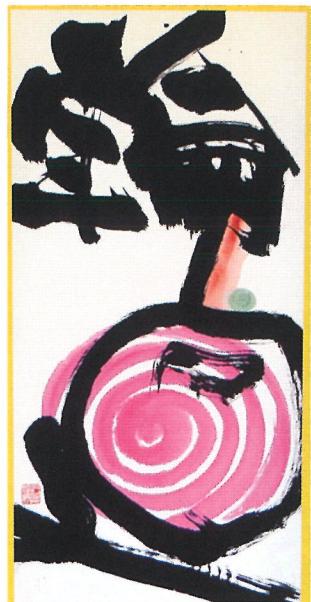
大仏さんもコロナにからないようにマスクを付けたとのこと。若者らしい心温まるユーモアに「今年はこれ！」と森本長老が東大寺賞に選ばれました。並んだ仏達、その上部の空間には中央に一文字のみ「密」と書き、その左右には何も書かなかった!!余白を作ったこの構成に意味が生まれ、平安を感じる一幅となりました。



## 朝日新聞社賞 「輪廻」

河野日佳莉さん（大阪府・四天王寺大学）

一文字目の絵画をりんごの芯のように二文字目の図は赤いりんごをイメージしてくるくる廻した線で表現しました。自分にしか書けない「輪廻」を書く！という創作で最も大切な姿勢がこの作品から伝わります。りんごは中国では「苹 (píng) 果 (guǒ)」「平 (píng) 和 (hé)」と音通のため好まれます。作者の願いに教養の一端も伺え、詩書画一体の作となりました。



## 奈良 21世紀フォーラム理事長賞 「転心」

森本智仁さん（奈良・東大寺学園高校）

牛乳を使った「白抜き」の技法は、時々目にしますが、この牛乳を霧吹きに入れ、スプレーのように出して書いたとのこと。非凡な発想です。よく太さの変化が出せたものです。高校生活で慣れ親しんだ「転心殿」それと同じ位、隸書を好み書き込んだことが見て取れます。作者は自分の技術を越えた試みをしたかったのでしょう、このような若者の将来は楽しみですね。



### 3. 万葉蹴鞠の保存

#### ◎春日大社奉納蹴鞠の実施

奉納蹴鞠の宴 in 飛火野 —新たなる奈良県観光資源に—

11月25日（水曜日）、午前10時30分から春日大社奉納蹴鞠行事として、万葉蹴鞠の奉納を同大社「林檎の庭」で行いました。今回の蹴鞠奉納については、コロナ禍により春季に実施予定を秋季に変更、感染症拡大防止の観点から春日大社林檎の庭での神事と奉納、一部蹴鞠披露を実施し、飛火野での競技披露及び一般参加の蹴鞠体験などを取りやめ、規模を縮小し実施いたしました。

平成27年、28年の春日大社第60次式年造替奉祝行事として2年間にわたり春・秋奉納し、29年から春日大社奉納蹴鞠行事として年1回実施しており、今回で8回目の奉納蹴鞠となりました。

「林檎の庭」で玉串奉奠など正式参拝した後、古代衣装姿のフリースタイルフットボーラーの飯島正人さんが蹴鞠を奉納しました。その後、猪熊兼勝氏（当フォーラム理事・京都橘大学名誉教授）に蹴鞠の解説をいただく中、当フォーラムの万葉蹴鞠チームの鞠足、高丸久範さん・田渕将章さん、フリースタイルフットボーラーの志田竜一さんの3名による蹴鞠披露が行われました。鞠足たちの華麗で軽やかな鞠さばきに魅了された一般参拝者から大きな拍手、歓声が湧き上りました。

以下、当日の様子を写真で紹介いたします。



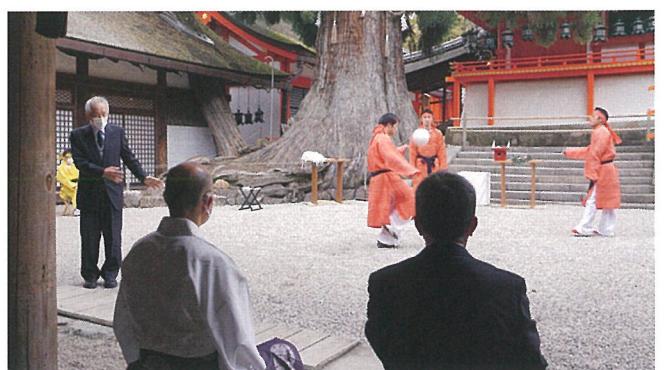
参加者一同お祓いを受ける



飯島正人の蹴鞠奉納



鞠足の皆さんによる蹴鞠披露

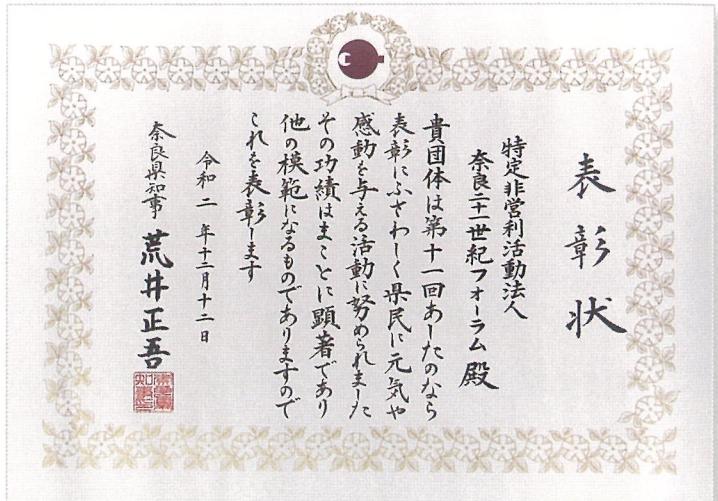


蹴鞠の解説をされる猪熊兼勝先生

# 「第11回あしたのなら表彰」を受賞

12月18日（金曜日）、午前10時30分から奈良県庁・知事室において「第11回あしたのなら表彰」の表彰状授与式が行われ、荒井正吾奈良県知事から植野康夫理事長に表彰状が贈呈されました。

これは、当法人が2000年に奈良の文化資源を活かし地域文化の振興と活性化に寄与することを目的に設立され、以来「万葉蹴鞠の復元」「書の文化の伝承」「県内の



歴史文化の探訪」「県内企業の企業文化・企業風土の調査と紹介」「吉野川源流の水源地の森を守る活動支援」などの活動に取組んできたことが、奈良のPRや魅力向上に寄与したとして高く評価されたことによるものです。

今回の受賞を契機にさらに各活動を充実、発展させてまいりたいと思います

今後とも、会員皆様の変わらぬご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 「第11回大仏書道大会」での感染防止対策 3密（密閉空間、密集場所、密接場面）の回避

- 飛沫シャットアウトパネルの設置
- 手指の消毒液の設置
- 係員のマスクの着用
- 感染防止対策のお願い文の掲出

などを行い、感染拡大防止に努めました。



受付風景

# 役員名簿

(令和3年1月1日現在)

職名	氏名	職業(経歴)
理事長	植野 康夫	(株)南都銀行 特別顧問
副理事長	谷口 宗男	奈良交通(株) 相談役
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問
相談役・理事	江並 一嘉	元(株)近鉄百貨店 副社長
理事	猪熊 兼勝	京都橘大学 名誉教授
理事	上野 誠	奈良大学 教授
理事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 相談役
理事	岡橋 清元	清光林業(株) 取締役会長
理事	岡村 元嗣	岡村印刷工業(株) 取締役会長
理事	花山院弘匡	春日大社宮司
理事	樋木 康雄	新日本料理材料研究会 主宰者
理事	菊池 攻	奈良トヨタ自動車(株) 取締役社長
理事	久保 昌城	竹茗堂 左文 代表
理事	小山 新造	小山(株) 取締役会長
理事	近東 宏佳	共同精版印刷(株) 取締役社長
理事	鳴川 安雄	(一財) 南都経済研究所 理事長
理事	高松 啓二	(株)近鉄百貨店 取締役会長
理事	豊澤 安男	奈良豊澤酒造(株) 取締役会長
理事	中井 隆男	大和ガス(株) 取締役会長
理事	中鳩 實男	奈良中央信用金庫 相談役
理事	長谷川俊彦	元(株)近鉄百貨店 専務取締役
理事	丸山 隆司	前KNT-CTホールディングス(株) 取締役会長
理事	森下 泰行	元近畿日本鉄道(株) 副社長
理事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役会長
理事	山崎 理	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役事業本部長
理事	山本 太治	(株)三輪山本 取締役社長・COO
理事	吉田 昌功	近鉄グループホールディングス(株) 顧問 近鉄不動産(株) 取締役会長
専務理事(事務局長)	中村 優造	元新若草山自動車道(株) 取締役社長
監事	中鳩 大	中鳩大会計事務所 所長
監事	福嶋 重博	奈良県サッカー協会 名誉会長

(50音順)

2021年1月発行

編集 中村優造

発行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル